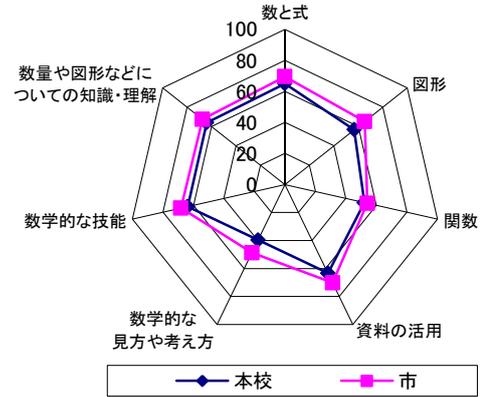


# 宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	65.0	69.6
	図形	56.7	65.2
	関数	52.0	54.1
	資料の活用	63.4	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	39.7	48.7
	数学的な技能	63.8	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	64.0	67.5



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率が市の平均と比べて-4.6%と下回ってはいるが、昨年度(-14.3%)と比較すると多少改善された。しかし、多項式の展開はほぼ定着しているが、他の計算問題では、市の平均を下回り、基礎・基本の定着が不十分である。文章題の立式では37.5%にとどまり、読み取る力にも課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き基礎的・基本的事項の反復練習を重ねるとともに、根気強く文章題等に取り組もうとする態度を育てていきたい。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>全問で市の平均を下回っており、2年生で学習した内容が特に低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>角の大きさや辺の長さを求める問題には積極的に取り組むので、円周角の大きさや相似な図形の辺の長さなど、図形の性質を用いた計算問題を確実に解かせ、理解を深めていきたい。</li> <li>証明問題は、基本的な性質(定理)が身に付くようパターン的な反復練習が必要である。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は市の平均に比べ2.1%低い。関係式や変域を求めるなどの知識や技能に関する問題は高い正答率であるのに対し、数学的な見方や考え方に関する部分では、市の平均を下回る傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数に対する苦手意識が強く、正答率が高い問題でも一般的な解き方を覚えて解いているにすぎない。関係式の持つ意味、グラフの意味や見方、表とグラフと式の間連性など、根本的な関数の理解を深めさせていきたい。</li> </ul>
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>全問において市の平均正答率を下回っている。2年生で学習したままで、復習する機会が無く定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率の問題では、他の領域と同様に文章を読み取って場面を把握する力に課題があると考えられる。身近な題材を扱うことができる単元なので、興味・関心から高めていきたい。</li> </ul>